

発見と学びと感動と ～白川わくわくランドと白川が教室!!～

白川わくわくランド ニュース



熊大附属小4年生

白川の成り立ち、生き物、水質、地下水、災害等を学習する中で、自分たちの学習のテーマが絞り込めたようです。この学習の後、自主学习として、国土交通省が行っている「川の通信簿」に同行し、いろんな場所の白川を体感することで、学習を深めていった子供もいました。



麻生田保育園

川原で石投げをしたり、水に触れたり、お気に入りの石を探したり思いっきり遊んだ後、ストーンペインティングを楽しみました。作った石の発表も上手でした。



龍田小学校5年生

思いを込めて作った「ホテル川」が大水でこわれまじ納得できました。失敗を次の学習につなげようと、次の課題が生まれます。



子飼橋河川敷では応援団の練習。夕方は高校生で賑わいます。

わくわくランドで白川の成り立ちを学習した後、白川に入って試業による水質検査や透視度計で水の透明度を測定し、自分たちの住んでいる所(中流域)の水質と比べました。「透明度は随分違つ」が実感だったようです。



大津南小学校4年生

この一学期に白川わくわくランドでは、たくさんの方の来館者を迎えました。学校の授業の一環として学習に来た小・中学生、幼稚園・保育園の園児たち、また土曜日、日曜日の親子連れなど子供たちも大勢来てくれました。子供たちの目が輝いている瞬間をいくつかとらえてみました。

発行

- 白川流域住民交流センター 利活用懇談会
- 白川流域住民交流センター (白川わくわくランド) 〒860-0854 熊本市東子飼町8-55 TEL・FAX(096)346-5454 ホームページアドレス <http://www.wakuwaku-land.com> メールアドレス wakuwaku@wakuwaku-land.com

白川の橋(2) 八城橋

白川河口から2番目の橋。昭和47年架設で橋長217.2m 幅5.5m。飽田町史によると「飽田町八分字と熊本市城山町を結ぶ、白川に架された橋であるため『八城橋』と呼ばれている。」とある。地元では従来の木造橋は「今村ん橋」と呼んでいたとも聞く。

この地域は、県立高校の開校、熊本新港の開港等に伴い交通量が増加し、自転車・歩行者が危険にさらされるようになった。その為、自転車・歩行者専用道(自歩道橋)が、平成10年完成し地元の人々やこの橋を利用する人たちに喜ばれている。



車と自転車・人は別々に



八城橋下流右岸から

白川沿いを歩いてみたら ～水運と商人の町として栄えた小島～



石ばね



白壁の商店



鯛を抱えた恵比須様

白川の河口に位置する小島町は、古く熊本城下町の玄関口として、水運隆盛を極めました。当時、問屋、商店、倉庫、旅館などが軒を並べ、町も繁盛し大変な賑わいだったようです。旧船着場の姿が旧白川(河川改修で現在は公園化)と坪井川に残っています。現在の町並みや船着場には当時をしのばせる個所が随所に見られます。ゆつくりと歩いてみると、人々と物資が行き交う往時の様子が偲ばれます。船着場の石段は赤い石で築かれています。多分宇土半島で産出される馬門石(まかどいし)だと思われませんが、これもやはり船で運ばれ築造されたのでしよう。また、この場所には、川岸を侵食から守るための石刻(いしばね)が四基ほどあったそうで、現在その一基が残されています。また、江戸末期に至る問屋の繁栄と海運隆盛のおもかげをしのぶものとして、積荷検問の番所跡も残っています。

水紀行 水源地巡り



阿蘇長陽大橋から白川と黒川の合流地点を見る

6月8日の土曜日、34名の参加者と阿蘇南郷谷方面に水源地巡りに行きました。田植えの済んだ南郷谷は緑がきれいで、田んぼにはおたまじゃくしが初夏の日を浴びていました。天候に恵まれ、各水源地の水温・pH・電気伝導度などを測定したり、講師の話の聞いたり意義ある一日になりました。



(明神池名水公園)

白水村のほぼ中央に位置する。この湧水地も6.26水害の時は、泥に埋もれたとか。今は清水が湧き出ている。



(竹崎水源)

毎秒2トンといわれる湧水量。この水量で久木野村土地改良区の水田の半分を潤している。川底の砂踊りが見られる。近くを白川の支流の両併川が流れる。

〈調査結果〉

	水温 (°C)	pH	電気伝導度 (ms/m)
揺ヶ池	15.2	7.12	74.8
竹崎水源	15.0	6.68	215
明神池名水公園	14.8	6.51	270

電気伝導度：水中に解けこんでいるイオンの量を示すもので、三測定個所では揺ヶ池はイオンの量が少ない。白川でおよそ350ms/m、他の川で110ms/mぐらいである。この数値によって水の味は異なってくる。

第三期わくわく塾 第3回

第三期わくわく塾 第2回

講師 淡水魚類研究家・熊本県希少野生動植物検討委員
藤井 法行 先生
題 魚たちから見た白川の現状



「阿蘇とナマズの関係」から講座が始まった。「阿蘇谷にオヤニラミがなぜいるか？」(南郷谷にはオヤニラミはいない。オイカワは移入魚として今はいる。)など、興味深い話が続いた。

白川は、支流が少なく、阿蘇の影響を受けやすい川であるため、火山活動によるヨナが長年にわたって魚たちを痛めつけてきたこと、魚の移殖・放流については昔はそれなりの貢献度があったこと、現在はむやみに放流される移入魚により在来種が絶滅の危機にあるものがあることなど考えさせられることが多かった。

生物の多様性と環境の多様性はお互いに相関関係にある。今後、魚のための「場」(産卵・生育・餌・休息・避難など)の確保など課題であり、人間(ヒト)も生態系の一つとして、すべての生物がバランスのとれた生態系を築く必要があるということであった。

講師 九州東海大学工学部 宇宙地球情報工学科
嶋村 清 教授
題 宇宙から阿蘇・白川の「生態系を取り巻く」環境を見よう！



人工衛星がどのようにして地球を見ているかという基礎的な話から講座は始まった。

人工衛星のセンサ(人間の目の代わりにするもの)が、可視光線や電波(とくにマイクロ波)をとらえる。そのセンサがとらえた情報は、「明るさの違い」として得られる。コンピュータで、「明るさの違い」から{情報}を抽出し、それぞれの分野に利用するというものであった。

得られた画像からいろいろなものが見えた。例えば、金峰山のカルデラ・普賢岳の火砕流跡・日奈久断層など。また、植物や水・土・建物などが色分けして識別できた。

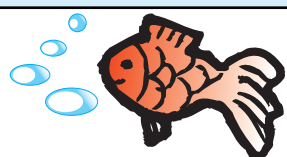
このようにして、地球上の情報を個別的に観測して蓄積するだけでなく、環境変化をはじめとする様々な分野に情報を適用していくということであった。

図書紹介

「白川おたすけガイドブック」が発刊されました。詳しくは、7号でお知らせ致します。



講座の途中で紹介された「一の宮町史—阿蘇山と水〜九州の水のふるさと〜」はわくわくランドにも置いてあります。貸し出しができますのでご利用ください。



第三期わくわく塾 第4回

講師 熊本県環境生活部環境保全課 水保全対策室 課長補佐 田中 伸廣 氏
題 地下水からみた阿蘇・白川の現状を明かす



なぜ、阿蘇の周辺には地下水が豊富か？という話から講座が始まった。地下水盆があり、雨が多く、水を浸透しやすい地質が分布する阿蘇から熊本市にかけての自然環境が豊かな地下水を育むもとになっているということだった。

また、地下水に大きく関係する阿蘇火砕流堆積物とはどのようなものか？熊本地域の地下水は？阿蘇谷の地下水は？などたくさんの疑問を解いていかれた。

最後に湧水の出口より入口を大切に。即ち地下水のかん養地を大切に、広い視野から水問題に取り組むことの必要性を述べられた。(かん養地とは自然に地下に水がしみこむように養い育てる土地のこと)